



大分県の森林・林業について

こんにちは。大分県の森林・林業行政のとりまとめを担当する「農林水産部審議監」の河野です。県庁の林業技術吏員を代表して、ご挨拶申し上げます。

ひとくくりに「林業」と言われることが多いのですが、実は守備範囲がとても広く、県土の保全や野生鳥獣の保護などの「環境」、木材生産や椎茸栽培などの「産業」、製材所や合板工場、バイオマス発電所と言った「製造」、製材品や木造住宅、椎茸の消費拡大や販売などの「流通」と、その仕事は多岐にわたっています。

中でも、木材の生産については、戦後、先人たちが汗を流して植えたスギやヒノキが伐採期を迎え、この豊富な森林資源に支えられた本県は、主伐・再生林の「循環型林業」のシステムづくりにいち早く取り組み、今では全国モデルとなっています。

特に、今ではハーベスタなどの高性能林業機械の導入が進み、「林業はカッコいい」と若者を引きつけ、昔で言う「木こりさん」は、新規就業の目玉にもなっています。

木材に関わる製材工場や合板工場などの製造業も元気です。アメリカに端を発したウッドショックなどの影響で、家づくりでは、スギ・ヒノキといった「国産製材品」が多く使われるようになり業界は絶好調です。この機会を逃さず、積極的な設備投資や販路拡大への支援を強化します。なお、国内の需要拡大と合わせ、北米や東アジア更にはアフリカなど海外の需要開拓にも引き続き県が率先して取り組んでいきます。

もう一つは、全国一の生産量を誇る乾椎茸の振興です。県では、新たな乾椎茸ブランド「うまみだけ」を販売戦略のキラーアイテムとして令和2年に発表しました。一般消費者への需要喚起と合わせ、安心安全の自然食品として海外への展開も視野に入れています。

県土の保全も重要な仕事です。近年多発する豪雨災害などに対応するため山地災害対策等にもしっかりと取り組んでいます。

このように、大分県の森林・林業はとても裾野が広く、資源小国の我が国において、貴重な産業としての成長が期待されています。

大分県で働くこと

私は大分市出身で実は林業公務員3代目です。祖父は内務省・林野庁の技官、父は県庁の林業技術吏員（部下として13年間仕えた）、そして小職と林業公務員が引き継がれています。代々、林業公務員という形で仕事が継承されているというのは、仕事の広さとおもしろさ、右肩上がりの環境をいち早く感じる事ができていたからです。やはり、公共事業を通し、国民の安心安全に携われること、明るい未来が見える産業に携われることは、大変やりがいがある職業です。

また、転勤も楽しみの一つです。大分県は道路事情がよく、ほぼ1時間の通勤圏域で振興局や研究機関に通うことができます。私は19回の転勤を経験しましたが、その度に多くの知人を得ることができました。更に民間企業への派遣システムを活用し、世界規模で活躍する武士（もののふ）のような仲間達（王子製紙植林部）と一緒に仕事をする機会も得ました。

林業職を志すみなさんへ

このように、大分県は森林・林業施策の先進県です。そして、時代を先取りした新たな施策にチャレンジすることが許される県です。地球規模で森林がクローズアップされる時代が到来した今、本県の発展を森林から一緒に考えてみませんか？